

商工会議所LOBO(早期景気観測)

－ 2011年3月調査結果 －



業況DIは、東日本大震災の影響で大幅に悪化

<結果のポイント>

- ◇3月の全産業合計の業況DIは、調査時点が、3月11日に発生した東日本大震災の直後だったことから、▲45.9(前月比▲5.8ポイント)と、3年2カ月ぶりの大幅な悪化となった。
- ◇業種別では、製造業と小売業のマイナス幅が特に拡大した。製造業は、ITおよび自動車関連工場の被災に伴う部品の調達難に加え、東京電力管内で実施されている計画停電の影響で生産能力が著しく低下していることが主な要因。また、小売業、サービス業の多くは、イベントの中止や宿泊キャンセルの激増により、厳しい経営状況に追い込まれている。
- ◇項目別では、震災の影響で原材料の供給が逼迫し、価格が一段と上昇したことから、仕入単価DIは、前月比▲10.8ポイントと大幅に悪化。また、資金繰りは、自社や取引先が被災した影響で、卸売業、製造業を中心にDIのマイナス幅が大きく拡大した。
- ◇先行きについては、先行き見通しDIは▲50.7と、今月から4.8ポイント悪化し、2010年2月以来のマイナス50台が見込まれる厳しい状況。震災による部品の供給不足や停電に伴う生産活動の停滞に加え、原材料価格のさらなる上昇、消費・売上の低迷などを訴える声が多い。

----- 調査要領 -----

○調査期間 2011年3月16日～23日

○調査対象 全国の408商工会議所が2688企業・業種組合にヒアリング

(内訳) 建設業:394 製造業:637 卸売業:248 小売業:747 サービス業:662

○調査項目 今月の業況・売上・採算などについての状況および業界として直面する問題等

※DI値(景況判断指数)について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりの意味する。

DI = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)
業況・採算: (好転) - (悪化) 売上: (増加) - (減少)

【本件照会先】 産業政策第一部 TEL:03-3283-7839 E-Mail:sangyo1@jcci.or.jp

<http://www.jcci.or.jp/lobo/lobo.html>

＜産業別の特徴的な動き＞

産業別にみると、業況D Iのマイナス幅は、すべての業種で拡大した。各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

DI値のマイナス幅(最近6カ月の傾向) ⇓ 縮小傾向 ⇔ ほぼ横ばい ⇓ 拡大傾向

【建設業】

業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
⇓	⇓	⇓	⇔	⇓	⇔

- ・「震災の影響で建築資材が届かないため、工事の完成が遅れるなど経営に悪影響が出ている」(建築工事業)
- ・「来年度予算が執行されるか不透明なため、向こう3カ月は受注獲得を期待できない」(一般土木建築工事業)
- ・「公共工事が減少する中、地方に進出する大手建設業者との競争が激しく、受注を確保できない地元の中小建設業者の経営は限界に達している」(一般土木建築工事業)

【製造業】

業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
⇓	⇓	⇓	⇓	⇓	⇔

- ・「地震により取引先からの部品供給が止まり、操業できない」(自動車・同附属品製造業)
- ・「自社で加工・納品していた製品を、取引先が海外生産に切り替えたため、売上が大幅に減少」(産業用電気機械器具製造業)
- ・「中東危機による原油価格の高騰に加え、砂糖など原材料価格も上昇し、収益が圧迫されている」(パン・菓子製造業)

【卸売業】

業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
⇔	⇔	⇔	⇓	⇓	⇔

- ・「震災の発生に伴い、消費者が生活必需品を買い込み、売上が増加」(各種商品卸売業)
- ・「消費者の低価格志向により売上が低迷する中、震災の影響で原材料の仕入価格が上昇している。また、資金繰りも厳しい状況」(農畜産・水産物卸売業)
- ・「食用油の仕入価格が上昇しているうえ、砂糖も今後値上がりが見込まれることから、採算が取れない」(農畜産・水産物卸売業)

【小売業】

業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
⇓	⇓	⇓	⇓	⇓	⇔

- ・「震災の影響で消費者は食料品など生活必需品を中心に購入しており、主力商品である衣料品、高額品の売上が極端に落ち込んでいる」(百貨店)
- ・「震災が発生した事情に鑑み、イベントを全て自粛したため、各店とも売上が悪化」(商店街)
- ・「消費者の低価格志向が一層強まっていることから、仕入価格の上昇分を販売価格に転嫁できず、利幅を抑えて販売せざるを得ない状況」(その他の小売業)

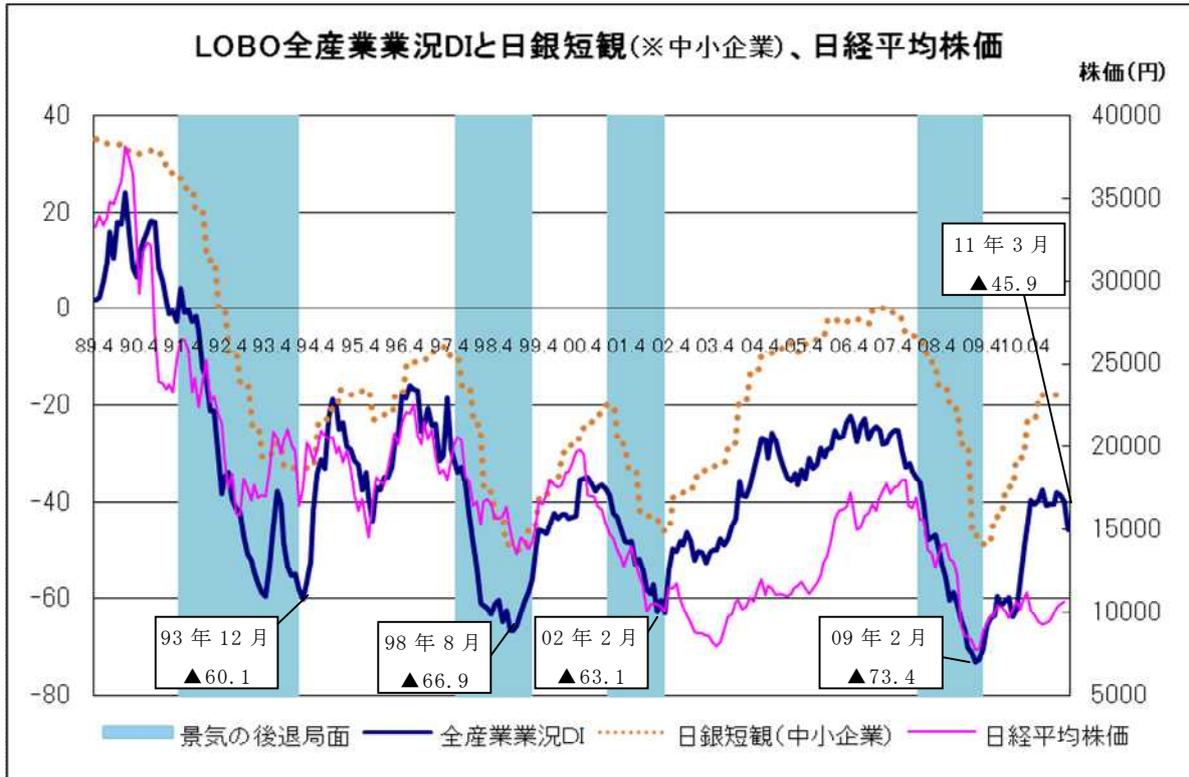
【サービス業】

業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
⇓	⇓	⇓	⇓	⇓	⇓

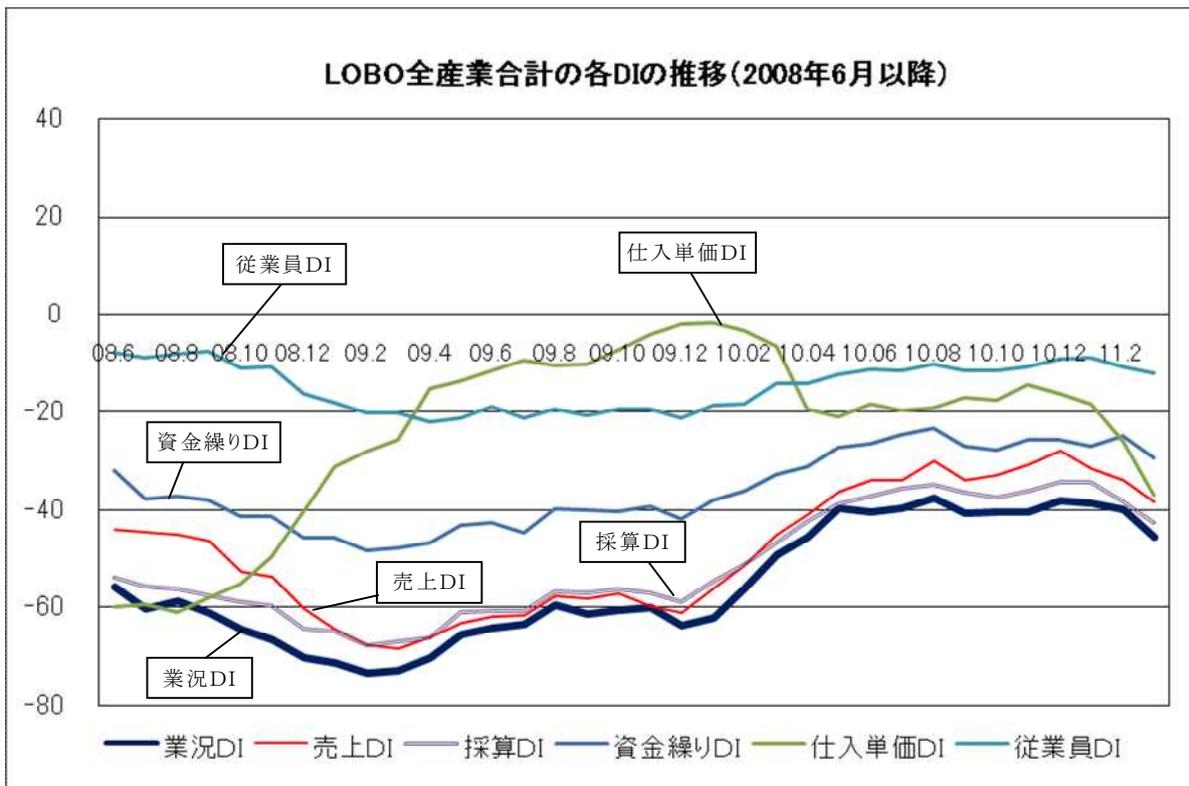
- ・「春先にかけて上向きつつあった宿泊の予約は、震災の影響でキャンセルが相次ぎ、経営は深刻な状況」(旅館)
- ・「必要最低限の従業員で営業しているため人員を増やしたいが、景気が回復し売上が上向かない限り、新規採用は難しい」(食堂、レストラン)
- ・「卒業、入学シーズンで本来なら忙しい時期だが、来客数は低迷」(理容)

なお、輸入原材料・製品(商品)を取扱っている企業に「円高による仕入価格の状況」について聞いたところ、「円高メリット以上に輸入原材料・製品(商品)の価格が高騰している」との回答が47.1%と、前月(37.1%)から大幅に増加した。

また、「仕入価格の上昇を受けての価格転嫁の状況」については、「販売価格に転嫁できていない」もしくは「販売価格への転嫁は小幅にとどまっている」との回答が95%以上と厳しい状況。



※短観 (中小企業) : 資本金 2 千万円以上の企業が調査対象



【業況についての判断】

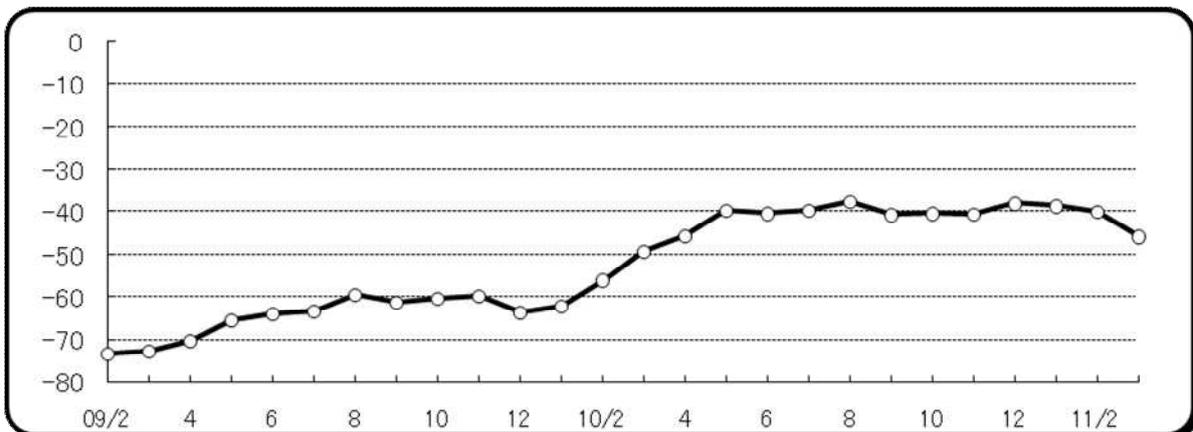
- 3月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は▲45.9（前月比-5.8ポイント）となり、マイナス幅は3カ月連続で拡大した。産業別にみても、全ての業種でマイナス幅が拡大した。
- 向こう3カ月（4～6月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）は▲50.7と、今月から4.8ポイント悪化の見込み。
- 産業別に先行き見通しをみると、今月と比べ、建設業、卸売業はほぼ横ばい、他の3業種はマイナス幅が拡大する見込み。

業況DI(前年同月比)の推移

	10年 10月	11月	12月	11年 1月	2月	3月	先行き見通し 4～6月
全産業	▲40.5	▲40.6	▲38.1	▲38.7	▲40.1	▲45.9	▲50.7
建設	▲54.4	▲51.5	▲50.7	▲48.7	▲50.9	▲59.5	▲60.3
製造	▲23.3	▲27.7	▲27.1	▲26.8	▲29.8	▲35.7	▲49.7
卸売	▲34.6	▲41.3	▲26.3	▲36.4	▲33.8	▲37.1	▲37.4
小売	▲45.6	▲41.8	▲39.1	▲37.4	▲38.7	▲46.0	▲49.0
サービス	▲46.7	▲45.3	▲45.0	▲46.8	▲48.0	▲51.5	▲52.6

※「先行き見通し」は当月に比べた向こう3カ月の先行き見通しDI

《業況DI(全産業・前年同月比)の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

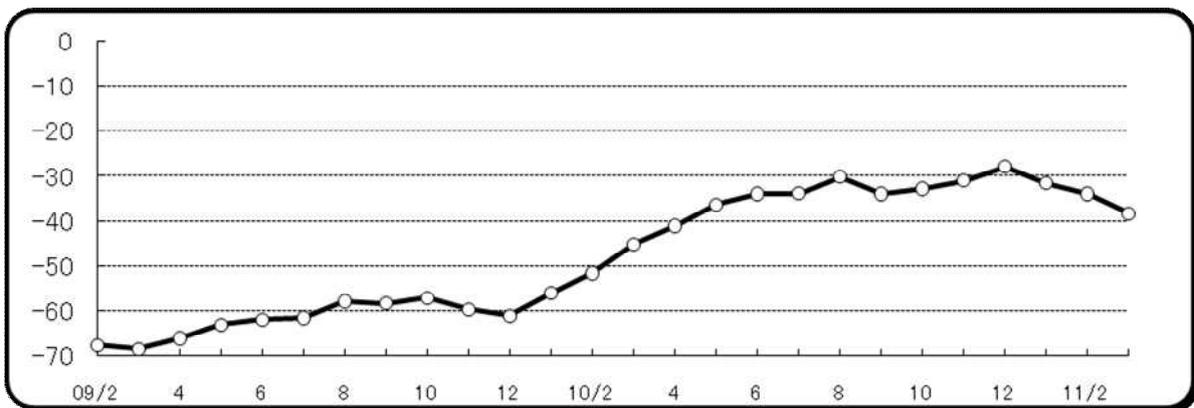
- 売上面では、全産業合計の売上D Iは▲38.4（前月比-4.4ポイント）となり、マイナス幅は3カ月連続で拡大した。産業別にみると、卸売業はマイナス幅が縮小したものの、他の4業種は拡大した。
- 向こう3カ月（3～5月）の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I（今月比ベース）は▲43.8と、今月から5.4ポイント悪化の見込み。
- 産業別に先行き見通しをみると、今月と比べ、卸売業はマイナス幅が縮小するものの、サービス業はほぼ横ばい、他の3業種は拡大する見込み。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	10年 10月	11月	12月	11年 1月	2月	3月	先行き見通し 4～6月
全産業	▲32.9	▲31.0	▲28.0	▲31.6	▲34.0	▲38.4	▲43.8
建設	▲46.3	▲43.0	▲46.0	▲46.1	▲48.6	▲51.0	▲52.4
製造	▲16.3	▲16.3	▲9.6	▲15.8	▲17.1	▲22.7	▲42.5
卸売	▲26.3	▲31.5	▲18.0	▲24.5	▲30.8	▲26.7	▲20.0
小売	▲36.5	▲31.3	▲30.8	▲31.5	▲34.4	▲42.4	▲45.5
サービス	▲40.5	▲38.1	▲36.4	▲41.5	▲43.0	▲47.3	▲46.9

※「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しD I

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

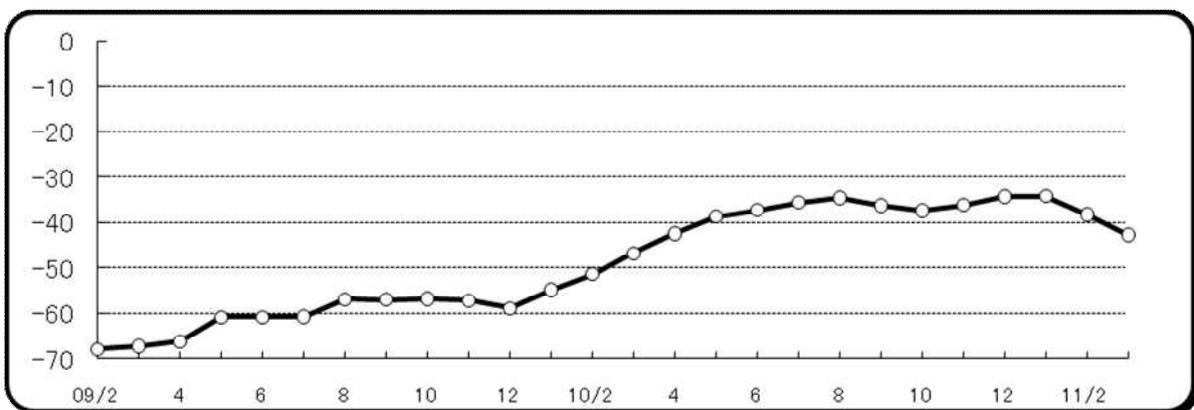
- 採算面では、全産業合計の採算D Iは▲42.9（前月比-4.5ポイント）となり、マイナス幅は2カ月連続で拡大した。産業別にみると、卸売業はマイナス幅が縮小したものの、他の4業種は拡大した。
- 向こう3カ月（3～5月）の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I（今月比ベース）は▲45.9と、今月から3.0ポイント悪化の見込み。
- 産業別に先行き見通しをみると、今月と比べ、建設業、サービス業はマイナス幅が縮小するものの、卸売業はほぼ横ばい、他の2業種は拡大する見込み。

採算D I（前年同月比）の推移

	10年 10月	11月	12月	11年 1月	2月	3月	先行き見通し 4～6月
全産業	▲37.5	▲36.3	▲34.5	▲34.4	▲38.4	▲42.9	▲45.9
建設	▲51.9	▲55.1	▲52.3	▲46.5	▲52.8	▲56.5	▲54.2
製造	▲24.7	▲25.8	▲25.4	▲26.5	▲31.3	▲36.3	▲50.2
卸売	▲26.3	▲29.4	▲18.8	▲22.4	▲26.2	▲25.0	▲24.3
小売	▲37.9	▲33.8	▲33.0	▲27.3	▲33.1	▲39.5	▲40.5
サービス	▲46.1	▲40.7	▲40.7	▲47.1	▲47.0	▲51.4	▲49.8

※「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しD I

《採算D I（全産業・前年同月比）の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比) の推移

	10年 10月	11月	12月	11年 1月	2月	3月	先行き見通し 4～6月
全産業	▲27.8	▲25.5	▲25.7	▲27.0	▲24.7	▲29.2	▲36.0
建設	▲40.3	▲35.5	▲41.7	▲40.4	▲38.1	▲37.7	▲45.1
製造	▲22.6	▲20.6	▲20.1	▲21.4	▲20.4	▲24.5	▲37.7
卸売	▲17.5	▲21.6	▲12.7	▲18.8	▲8.1	▲17.1	▲27.5
小売	▲28.9	▲24.0	▲24.9	▲21.6	▲22.0	▲28.6	▲31.4
サービス	▲28.2	▲27.5	▲27.3	▲32.7	▲29.6	▲33.9	▲36.0

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計の資金繰りD Iは▲29.2となり、マイナス幅は2カ月ぶりに拡大した。産業別にみると、建設業はほぼ横ばいとなったものの、他の4業種はマイナス幅が拡大した。

【先行き見通しD I】全産業合計の先行き見通しをみると、今月と比べ、全ての業種でマイナス幅が拡大する見込み。

仕入単価D I (前年同月比) の推移

	10年 10月	11月	12月	11年 1月	2月	3月	先行き見通し 4～6月
全産業	▲17.6	▲14.5	▲16.3	▲18.3	▲26.0	▲36.8	▲42.7
建設	▲21.1	▲19.1	▲16.0	▲22.7	▲30.6	▲45.3	▲54.5
製造	▲21.2	▲21.4	▲20.8	▲24.5	▲32.8	▲42.3	▲49.1
卸売	▲16.5	▲14.0	▲15.0	▲14.0	▲24.6	▲33.6	▲33.9
小売	▲4.7	▲3.3	▲9.4	▲10.8	▲13.6	▲28.5	▲32.7
サービス	▲27.0	▲16.9	▲20.2	▲18.6	▲30.0	▲35.5	▲42.0

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計の仕入単価D Iは▲36.8となり、マイナス幅は4カ月連続で拡大した。産業別にみても、全ての業種でマイナス幅が拡大した。

【先行き見通しD I】全産業合計の先行き見通しをみると、マイナス幅は今月と比べ悪化する見通し。産業別にみると、今月と比べ、卸売業はほぼ横ばいとなるものの、他の4業種はマイナス幅が拡大する見込み。

従業員D I（前年同月比）の推移

	10年 10月	11月	12月	11年 1月	2月	3月	先行き見通し 4～6月
全産業	▲11.6	▲10.6	▲9.2	▲9.0	▲10.8	▲11.9	▲14.6
建設	▲22.5	▲23.8	▲23.6	▲21.9	▲23.0	▲23.9	▲26.1
製造	▲12.8	▲12.0	▲8.7	▲10.1	▲11.3	▲11.6	▲14.8
卸売	▲12.0	▲14.7	▲9.1	▲10.5	▲10.0	▲12.1	▲14.8
小売	▲5.7	▲5.3	▲4.4	▲4.0	▲6.9	▲6.5	▲8.2
サービス	▲10.1	▲4.9	▲5.8	▲4.2	▲6.7	▲10.3	▲13.5

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計の従業員D Iは▲11.9となり、マイナス幅は2カ月連続で拡大した。産業別にみると、建設業、製造業、小売業はほぼ横ばいとなったものの、他の2業種は過剰感が強まった。

【先行き見通しD I】全産業合計の先行き見通しをみると、今月と比べ、全ての業種で過剰感が強まる見通し。

※「先行き見通し」は当月に比べた向こう3カ月の先行き見通しD I

【ブロック別概況】

- ブロック別の業況D I（前年同月比ベース）は、四国でマイナス幅が縮小したものの水準は低迷。他の8地域は拡大した。
- 震災の影響で、東北はマイナス幅が大幅に拡大（前月比－17.6ポイント）。隣接する北陸信越、関東も、商品の供給や停電に伴う生産能力の低下、催事や宿泊予約のキャンセル増加などの影響が特に大きく、前月から大幅に悪化した。
- ブロック別の向こう3カ月（4～6月）の業況の先行き見通しは、今月と比べ、東北、北陸信越、関東、東海、九州の5地域で拡大する見込み。特に東海は、製造業を中心に、今後の仕入価格の高騰や供給不足を懸念する声が多く、今月から大幅に悪化（－17.0ポイント）する見込み。

ブロック別・全産業業況D I（前年同月比）の推移

	10年 10月	11年 11月	12月	11年 1月	2月	3月	先行き見通し 4～6月
全 国	▲40.5	▲40.6	▲38.1	▲38.7	▲40.1	▲45.9	▲50.7
北 海 道	▲37.6	▲42.9	▲49.0	▲48.9	▲48.3	▲51.1	▲50.5
東 北	▲35.7	▲35.8	▲25.5	▲34.2	▲40.6	▲58.2	▲68.7
北陸信越	▲38.5	▲37.0	▲32.3	▲34.7	▲35.1	▲45.0	▲51.3
関 東	▲37.9	▲37.2	▲36.2	▲34.5	▲38.7	▲49.5	▲58.9
東 海	▲40.7	▲38.3	▲29.0	▲35.1	▲23.7	▲28.9	▲45.9
近 畿	▲39.7	▲44.1	▲44.1	▲43.4	▲46.3	▲47.3	▲47.0
中 国	▲47.8	▲50.0	▲50.5	▲44.2	▲45.7	▲51.1	▲48.9
四 国	▲35.0	▲40.3	▲38.2	▲42.3	▲46.3	▲41.4	▲35.3
九 州	▲55.3	▲47.1	▲45.2	▲42.7	▲41.7	▲47.4	▲48.5

※「先行き見通し」は当月に比べた向こう3カ月の先行き見通しD I

地域における東日本大震災の影響

商工会議所LOBO(早期景気観測)
 - 2011年3月調査結果(別紙) -

 日本商工会議所
 The Japan Chamber of Commerce and Industry
 2011年3月31日

ポイント

- 震災の影響に関する声が全国から寄せられている
 - ▶ 工場の被災により、素材・部品等のサプライチェーン(供給体制)に甚大な支障が発生
 - ▶ 東京電力管内で実施されている計画停電による生産活動への影響も大きい
 - ▶ 買いだめが発生する一方、各地で宴会・宿泊のキャンセルが激増するなど、消費控えが顕著
- 先行きへの不安を訴える声も、地域・業種を問わず多い
 - ▶ 素材・部品等の供給不足や計画停電の長期化に伴う生産活動の停滞
 - ▶ 原材料価格の一段の上昇および調達難
 - ▶ 風評被害の拡大等による消費の低迷

地域の声

北海道・東北

(※) 調査期間：2011年3月16日～23日。以下同じ。

<震災発生後の影響>(※)	<先行き懸念>
【取引先の被災】取引先が被災し、売上代金の回収が不可能になった (青森・製材業)	【調達難】生産や物流に支障が出ており、納期に間に合わないなど住宅着工に重大な影響が及ぶ見通し (山形・製材業)
【サプライチェーン】物流がストップし、開店休業一步手前の状態 (酒田・織物外衣製造)	【調達難】生産地が被災した影響で仕入価格が上昇傾向にある (秋田・花卉卸)
【調達難】物流網が混乱している。発注した建築資材が届かず、工事の完成が遅れている (帯広・建築工事)	【自粛ムード】謝恩会や転勤等の送別会の自粛が多く、酒類流通の悪化が見込まれる (酒田・その他小売)
【消費控え】多数の予約キャンセルが発生し、対前年同月比で50%を割り込んでいる (函館・旅館)	【風評被害】風評による観光客の減少を懸念 (久慈・飲食店)

関東

<震災発生後の影響>	<先行き懸念>
【直接被害】建物の損壊に加え、酒類や食器類等の商品に破損が生じた (土浦・商店街)	【計画停電】操業停止を余儀なくされ、生産量の急減が予想されることから、大幅な減益が避けられない (横浜・その他金属製品製造)
【調達難】製紙工場の被災により印刷用紙が不足し納品遅れが発生 (東京・印刷業)	【計画停電】営業時間を短縮もしくは休業せざるを得ない。来客数の大幅減少や収益の悪化が予想される (宇都宮・百貨店)
【調達難】東北地方のハム関連工場が被災し操業を停止しており、商品の仕入に支障が出ている (海老名・その他小売)	【消費控え】出荷制限による野菜の売上減少を懸念 (茂原・スーパー)
【計画停電】停電の有無が直前まで分からず、適正な人員配置や生産計画が立てられない (本庄・自動車部品製造)	【消費控え】4月以降の企業・スポーツ関連の予約がほとんどキャンセルされている (平塚・旅館)

北陸信越・東海

<震災発生後の影響>	<先行き懸念>
【買いだめ】米、水、乾電池など生活必需品の売上が増加 (大府・スーパー)	【調達難】建築資材を入荷できないうえ、今後は資材不足による価格上昇が見込まれる (新発田・建築工事)
【調達難】建築資材を調達できる見通しが全く立たず、顧客からの発注に応じられない (中野・一般工事)	【調達難】原材料を調達できる見通しが立たず、在庫不足に陥ることを懸念 (西尾・鉄素形材製造)
【代替生産】同業者が操業困難なため、代替生産の要請を受け入れている (白山・金属加工機械製造)	【消費控え】春の観光シーズンに向けて上向きになりつつあった予約もキャンセルが相次ぎ、見通しが立たない (恵那・旅館)

近畿

<震災発生後の影響>	<先行き懸念>
【買いだめ】商品の買いだめにより、売上が一時的に増加 (明石・スーパー)	【調達難】板ガラスの生産拠点が被災し、生産に支障が出ているため、当面、入荷が見込めない (小野・建材小売)
【調達難】建築資材が入荷する目途が立っておらず工事を停止せざるを得ない (京都・一般工事)	【調達難】今後、復興需要が見込まれ、建築資材の品薄による仕入価格の上昇を懸念 (赤穂・一般工事)
【事業所移転】活動拠点を東京から大阪に移す動きがみられる (大阪・不動産賃貸業)	【消費控え】同業者からも来客数が減少との声がかかるなど、先行きが厳しい (高砂・飲食店)
	【消費控え】宴会・宿泊のキャンセルが相次いでいる (橿原・旅館)

中国・四国・九州

<震災発生後の影響>	<先行き懸念>
【調達難】原材料を確保できず、受注分を納品できない (西条・建築用金属機械製造)	【取引先の被災】取引先の業務再開が危ぶまれることから、自社の資金繰りが悪化する恐れ (日田・建築資材卸)
【調達難】商品入荷が不透明なため、チラシによる販促ができず、売上が厳しい (白杵・その他小売)	【調達難】資材不足による仕入価格の上昇を懸念 (廿日市・建築材料卸)
【自粛ムード】歓送迎会のシーズンだが、自粛が相次ぎ深刻な打撃を受けている (西条・食堂、レストラン)	【消費控え】キャンセルが相次ぎ、業況はかなり悪い (那覇・旅館)
【復興需要】震災復興工事の依頼が来ている (北九州・電気工事)	【自粛ムード】催し物や旅行の自粛が長期化すれば受注の減少は避けられない (伊万里・陶磁器製造)